

学区の地域基礎調査

祇王学区

1. 学区の特徴

祇王学区は、永原御殿や妓王妓女の歴史、北村季吟の文化や教育で知られる地域である。

北・中北・旧永原（上町・江部・下町）富波甲・富波乙・辻町・上屋の旧在所に、松陽台・富波野・新上屋・野洲の里・見星寺の新興住宅が加わり、現在14自治会人口7,975人、3,072世帯の学区である。

旧在所の高齢化と新興自治会との年齢格差が大きく、少子化が進む中においても、当学区は住宅開発により子供人口が増加してきている。

今年度、野洲市の第1号館の社会教育センター（現、コミセン）として、設立20周年を迎える。

長年にわたる社会教育問題への取組みで、地域住民の意識、協力体制が強いのが特徴である。



◆菅原神社

野洲市永原にあり、祭神は菅原道真で全国1万1千社ある天神信仰の一つ。

永原千句と呼ばれる連歌興行が盛大に行われ、当時著名な宗祇などが招かれるなど古くから多くの人から親しまれてきた神社。

親しみを込めて『永原天神』とも呼ばれている。



◆妓王寺

平家物語ゆかりの妓王と妓女は、中北の生まれで平清盛に妓王は、郷土が早魃に悩んでいるのを知り、清盛に懇願して祇王井川をひいてもらった。

これに感謝し、菩提を弔うために村人が立てた寺である。



◆銅鐸博物館・弥生の森歴史公園

昭和63年11月に開館。大岩山から出土した24個の銅鐸に関する展示がメインで、この中には高さ134.7cm重さ45.47kgの日本最大の銅鐸も含まれている。

隣接する弥生の森には、竪穴式住居が復元されている。秋には効用のライトアップがあるほか、水田では赤米の復元を試みている。



2. 地元商品取扱店の調査

◆ J A近江富士農協祇王支店

朝市： 第2、第4金曜日 出品者：地元農家でJ Aの口座開設者



3. 地元商品を販売するイベント

◆ ぎおう大収穫祭（毎年10月or11月2日間） 会場：コミセンぎおう駐車場

主 催：コミセンぎおう文化事業実行委員会

共 催：学区連合会

参加者：学区在住の農業者・加工業者

来客数：2日間延べ1000～2000人程度

商 品：野菜・生花・果物・米・米加工菓子



◆コミセンフリーマーケット（4月～12月第3日曜日） 会場：コミセンぎおう駐車場

主 催：コミセンぎおう
参加者：学区在住農業者
来客数：50～100人程度
商 品：野菜・果物・漬物



◆てんこもり市（開催は不定）会場：銅鐸博物館駐車場

主 催：靖観光物産協会
参加者：市内商工業者、農業者、市民団体
来客数：500～600人程度
商 品：野菜、果物、その他加工品



4. 地元に伝わる伝統料理やもの、伝統芸能など

◆火渡り神事

毎年2月25日に菅原神社で祈念大祭である『天神まつり』が開催され、この中で立春から始まった新しい年の繁栄と無事安全を祈る祭典である。

